

令和6年度千葉県サービス管理責任者
児童発達支援管理責任者更新研修

スーパービジョンの進め方②

事例検討型グループスーパービジョン

(特非) 千葉県精神障害者自立支援事業協会

スーパービジョンの種類

個人		○ケースの掘り下げがしやすい ×専門的なSVの確保が難しい
グループ		○グループでの共感が生まれる ×個人的感情が出しにくい
ライブ		○具体的な助言が得られる ×SVの力量が問われる
ピア		○親しみやすく入りやすい ×単なる友人関係になりやすい
セルフ		○すぐに取り組み振り返り効果が高い ×継続していく動機付けが必要

代表的スーパービジョンの特徴

① 個人スーパービジョン

スーパーバイザーとワーカーが1対1で契約をして実施
倫理、知識、技術まで深く、細かく指導が可能だが、機
会は稀となる。

② グループスーパービジョン

スーパーバイザーと複数のワーカーが契約をして実施
複数の声や評価を聴けて効果あるが、深くは入れない

③ ピアスーパービジョン

ワーカー同士で、ルールを設定して実施
時間を見ながら気軽にできるが、客観性の担保が課題

④ その他（メンタリングなど）

グループスーパービジョン（GSV）の特質

GSVは**グループダイナミクス（力動性）**を前提にしている

- 1 SVRはメンバー間の**相互交流をうまく引き出す**こと
- 2 SVRは常にメンバー**全員を相手に応答**すること
- 3 発言できているか、聴き合っているかを確認すること

GSVは個人SVに比してSVRとの信頼関係構築が難しい

- 1 SVRの支配を受けにくく独自の文化をつくる
- 2 その文化がモラルの低下になるときは話し合う
- 3 **個人SVとの組み合わせが有効**

SV：スーパービジョン SVR：スーパーバイザー SVE：スーパーバイジー

グループスーパービジョンの進め方（SVRの役割）

- SVRIは、グループリーダーとして存在し、グループディスカッションの進行役を務める。
- 個人SVのように、対等な関係を築くというよりは、リーダーとしてグループダイナミクスを活性化させる動きを意識して進行することになり、参加者の共通課題（テーマ）を提示して、グループの成員が参加できるようにする。
- 話題がテーマから大きく逸れてしまったり、雑談になっているとか、グループディスカッションの話題が曖昧になっているときには、討論の進行の調整役を実行する。
- 参加者同士の集団力動が、今グループで起きている話し合いとは関係のない人間関係や日常活動や組織・機関の関係などが影響しているかどうかを判断し、グループで孤立している参加者はいないか等の配慮をする。
- 発言が少ないメンバーに対する発言を促す。

グループスーパービジョン ステップ

- ①出席者自己紹介（演習動画では省略）
- ②事例紹介
- ③人物像や環境を共有する質問
- ④人物や環境などのストレングスに関する質問
- ⑤今後の方向性の確認
- ⑥スーパーバイズ
- ⑦参加者の感想（演習動画では省略）

実際に模擬演技を見て確認をしてみましょう。

※模擬演技協力団体
(松戸市障害者地域包括ケアネットワーク)

7

動画 (団体紹介)

動画 (GSV)

(事例の概要は資料1 2 3 ページをご覧ください)

8

グループスーパービジョンを行う上での留意点

模擬演技を見ていかがでしたでしょうか？
事例検討とは目的が違い、事例提供者（SVE）の
気づきに焦点を当てていました。

グループスーパービジョンの有効性

- ① 効率性
- ② 集団の力
- ③ 参加者から学ぶ・影響を受ける
- ④ SVRとSVEの関係

演習では実際にロールプレイを行います。

個別スーパービジョンと同様に演習でも事例を変えてグループスーパービジョンを実施します。

皆さんはスーパーバイザー（SVR）として、事例提供者に向けて気づきを引き出すような質問を考えてみましょう。

以上が
スーパービジョンの進め方②
となります。